

郵政博物館誕生115年記念

錦絵

東京 浪漫展

2017年 9月16日(土) ~ 11月26日(日)

※会期中展示替えあり(前期9/16~10/24、後期10/26~11/26)



郵政博物館

POSTAL MUSEUM JAPAN

〒131-8139 墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
TEL 03-6240-4311(総合案内) HP <http://www.postalmuseum.jp/>



開催にあたって

当館の起源は、明治32(1899)年、逓信省内に設置された「参考品室」まで遡ります。その後、明治34(1901)年6月20日、「万国郵便連合加盟25周年」の記念展覧会の際に初めて「郵便博物館」の名称で収蔵品が一般公開され、公の博物館として歩み始めました。

本年で当館誕生115年となることを記念し、今春に開催した「通信のあゆみ—悠久の大通信展」に引き続き、記念展の第二弾として、文明開化の東京等を描いた錦絵を紹介し当時の観光名所や風物を懐古する「錦絵-東京浪漫」展を、9月16日から11月26日まで開催します。

西暦1868年、王政復古の大号令により江戸幕府の廃止が宣言され明治新政府が成立、以降日本は、欧米に並ぶ近代国家への道を歩み始めます。

文明開化により、都心を中心に欧米の新しい文化・文物が積極的に取り入れられると、街のようすや人々の生活にも変化が訪れました。東京は、江戸の風情を残しつつ西洋の建築や文化を取り入れた美しい都として大きく発展していきます。

どうぞ、華やかなりし帝都・東京を錦絵でお楽しみください。



《米国前大統領グランド公市中遊覧日本橋大國旗壯觀之真図》 歌川広重(三代)/明治12(1879)年

華やかなりし帝都・東京



《東京名所 室町三井富士遠景》 梅堂国政/明治7(1874)年



《古今東京名所 日本橋大名の行烈・日本ばしより室町の図》
歌川広重(三代)/明治17(1884)年



《東京府下名所尽 四日市郵便寮》 歌川広重(三代)/明治7(1874)年

郵便寮は、明治4年3月(1871年4月)の郵便創業時に郵便事業を管轄していた中央機関であった郵便司の後身組織で、同年8月に郵便寮になった。

創業当時は、日本橋四日市にあった魚会所の古い建物を使用していたが、明治7年4月30日に改築された。洋風木造二階建て、バルコニー付き、破風の下に当時としては大変珍しい時計が取り付けられた建物は、文明開化期の建物として評判となり、見物人が多く訪れた。

この地は、現在、日本郵便発祥の地として知られる。



《東京名所図会 銀座通り煉瓦造》
歌川広重(三代)/明治12(1879)年

銀座通りの賑わいとガス灯に点火をしている人の様子が描かれている。東京に初めてガス灯が設置されたのは、明治7年のことである。ガス灯や煉瓦造りの建物は、銀座の文明開化を象徴したものとして、銀座の名物となった。



《東京名所之内 江戸橋三菱蔵郵便局》 歌川広重(三代)/郵便局明治14(1881)年

江戸橋のたもとにある江戸橋郵便局と、その横にある赤煉瓦造りの三菱倉庫を描いている。橋の上を人力車や通行人が行き交い、郵便外務員が駆けている姿もみえる。

広重は、この江戸橋と三菱倉庫と郵便寮、そして第一国立銀行と郵便外務員の姿を好んで描いた。



《東京名所 する賀町三ツ井ハウスノ図》 歌川広重(三代)／明治7(1874)年

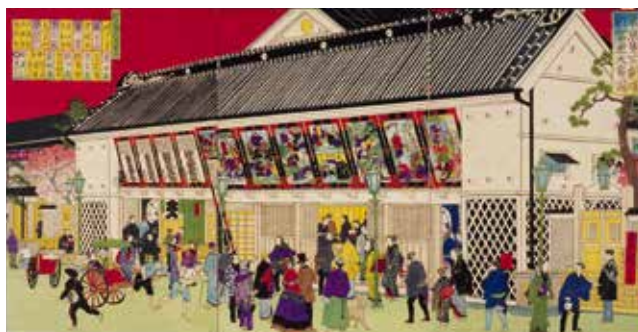
両替商の三井組は、明治5年に海運橋の側にあった三井組ハウスを第一国立銀行に譲り渡し、明治7年5月6日に駿河町(現在の室町1・2丁目)に新しい洋風建築「為替バンク三井組」(旧三井銀行、現在の日本橋室町の三井本館)を設立した。この建物は、一般に「三井ハウス」と呼ばれた。

三井ハウスの右隣は、三井一族経営の越後屋呉服店(現在の日本橋三越本店)で、両替店も経営していたため画面右端には証券印紙売捌所の看板が見える。洋装や洋傘の通行人、警官と郵便外務員の黒の洋装スタイル、ガス灯など、典型的な文明開化の様相がうかがえる。



《東京築地ホテル館繁栄之図》 歌川国輝(二代)／明治2(1869)年

築地ホテル館は、築地の旧幕府御軍艦操練所跡に建てられた。設計はアメリカ人のプリジェンスであるが、二代目清水喜助が工事を請負った日本人による西洋風建築で、慶応4年8月に完成した。明治5年の銀座の大火で焼失するまで、東京を訪れた外国人の唯一の宿泊施設であり、商品の取引の場としても利用された。木造瓦葺、なまこ壁、漆喰塗り、窓は絵で鑑戸、塔屋に昇る階段は周り階段、塔屋のある4階建ての建造物は大変珍しく大評判となり、文明開化の名所として錦絵にも数多く登場している。



《東京第一之劇場 新富座大当ノ図》 歌川広重(三代)／明治14(1881)年



《久松町劇場 久松座繁栄図》 歌川広重(三代)／明治12(1879)年



《東京銀座煉化石聯家京橋ヨリ一覽之図》 昇斎一景／明治6(1873)年



《東京名所 銀座通朝野新聞社盛大之真図》 歌川広重(三代)／明治12(1879)年

そのほかの都市

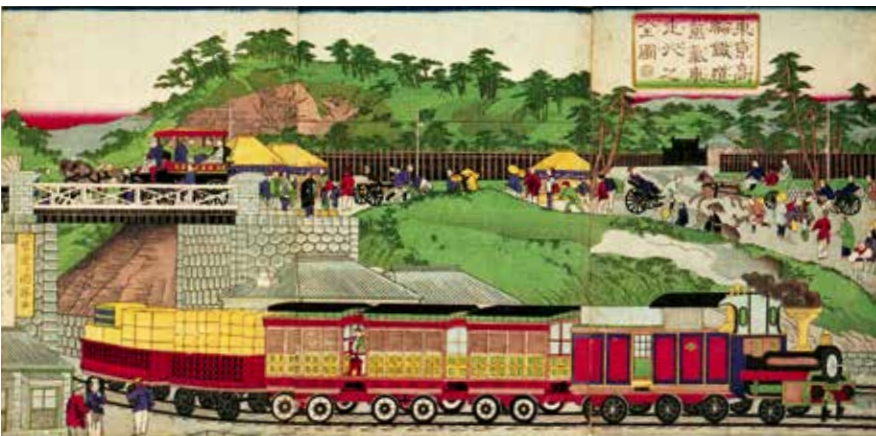


《横浜郵便局開業之図》 歌川広重(三代)／明治8(1875)年



《大日本大阪両鉄橋之図》(部分) 東新太郎 発行／明治22(1889)年

新時代の乗りもの



《東京高輪鉄道蒸気車走行之全図》 歌川国輝(二代)／明治4(1871)年

明治5年5月7日に品川～横浜間に初めて鉄道が仮開通し、それと同時に汽車で郵便物を輸送するようになった。明治5年10月14日、新橋・横浜間約29kmが正式に開業した。

画面左は八ツ山の陸橋で、多くの見物人が描かれている。八ツ山の陸橋は、蒸気機関車見物の絶好の場所であった。陸橋の下の建物は品川駅である。

この汽車は、明治4年に輸入されたイギリス製の蒸気機関車と思われる。



《鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図》 歌川広重(三代)／明治15(1882)年

明治15年頃の京橋の風景が描かれている。街路上にレールが敷かれ、鉄道馬車が往来している。鉄道馬車は、明治15年6月25日に新橋～日本橋間で開業し、庶民の乗り物となった。鉄道馬車の脇を、当時流行の赤い人力車が走っている。

画面後方の建物は、煉瓦造りの建物に建て替わった「みすや」の針問屋、玉寿司、牛肉の「松田」である。



《東京往来車尽》 歌川芳虎／明治3（1870）年

明治3年頃の東京で使用していた馬車を中心に、当時まだ珍しかった乗り物－蒸気船、蒸気車、商人馬車、往来馬車、二階馬車、異人馬車、人力車や荷車が描かれている。

日本で馬車が走ったのは幕末頃からであり、明治15年に鉄道馬車が開通するまでは、乗合馬車が繁昌し、明治7年頃はこの絵のような二階馬車が、新橋～浅草を往復していたが、当時の道路事情では、重量のある大きな二階馬車は危険で事故も頻発し、まもなく禁止になった。



《浅草並木人力車の賑ひ》 昇斎一景／明治4（1871）年8月



拡大図

浅草並木町における人力車ラッシュを描いたものである。人力車は、明治期の錦絵にとって代表的な画題の一つで、明治2年頃和泉要助・高山幸助・鈴木徳次郎らが発明し、東京で開業した。画面後方に仁王門と五重塔、手前が並木町、中景を広小路が横切っており、その四つ辻の奥右側角に遠くから見てもすぐにわかる目印として「郵便」と書いた旗が立っている。



《東京両国通運会社川蒸気往復盛栄真景之図》 歌川重清／明治10年代

両国橋の西たもとにあった内国通運会社の通運丸乗船所と、隅田川を航行している外車式汽船通運丸が描かれている。

内国通運会社は、現在の日本通運株式会社の前身である。水上の通運丸は、船首に日章旗、船尾には初期の郵便旗を掲げており、乗船所入口の看板には「郵便御用蒸気通運丸乗船所」と書かれている。



《新橋之図》 明治後期～大正期

新橋付近を市電が行き交っている様子が描かれている。後方の建物が新橋駅で、明治5年7月にアメリカ人ブリジェンスの設計により建設されたものであるが、関東大震災で焼失した。

明治30年頃までは、人力車・乗合馬車・鉄道馬車が行き交っていたが、明治36年8月、東京馬車鉄道は東京電気鉄道に引き継がれ、東京での路面電車の運転が開始された。

文明開化の世相をかいまみる



《東京豪商寿語六》 歌川広重（三代）／明治7（1874）年

この寿語六は、文明開化期に発展した会社を取り上げ、東京の豪商ばかりを描いたものである。為替会社を振出しに、廻船会社・三菱組・馬車会社・陸運元会社・三井組・第五国立銀行などを経て、最後の第一国立銀行が上りとなるゲームである。左下の2番目には郵便会社と書いた駅通寮、中央の下から2番目には、高島組の建物の前を郵便外務員が駆けていく姿も描かれている。



《当世隊長せよつくし》 歌川房種／明治13（1880）年頃

「はなし家の隊長」「つまらぬ隊長」「てやすい隊長」など、さまざまな隊長が登場する錦絵である。その中の隊長の一つ、「弁利の隊長」として「郵便」が取り上げられ、郵便外務員の姿が描かれている。登場する隊長の中には、けなされた文章のものもあるが、郵便は「電信蒸気が壮大にもせよ」やはり「弁利の隊長」であるということで誉めている。ちなみに、蒸気とは「蒸気車（陸蒸気）」のことである。

主な展示資料

資料名	作者等	製作年	展示		図版
			前期	後期	
東京名所之内日本橋真景之図	歌川国輝(二代)	明治6(1873)年	○		
東京四十八景 日本橋	昇斎一景	明治4(1871)年		○	
東京名所図会 駿河町	歌川広重(三代)	明治18(1885)年	○		
東京名所する賀町三ツ井ハウスノ図	歌川広重(三代)	明治7(1874)年	○		●
東京名所室町三井富士遠景	梅堂国政	明治7(1874)年		○	●
米国前大統領グラント公市中遊覧日本橋大国旗壯観之真図	歌川広重(三代)	明治12(1879)年		○	●
東京府下名所尽 四日市駅遡寮	歌川広重(三代)	明治7(1874)年	○		●
東京駿河衛国立銀行繁栄図	歌川広重(三代)	明治6(1873)年	○		
日本橋区大伝馬町参目大丸屋呉服店繁栄図	井上探景	明治19(1886)年		○	
東京真景図会あらめばしより江戸橋	歌川広重(三代)	明治8(1875)年		○	
江戸橋ヨリ鑑橋遠景	井上探景	明治21(1888)年		○	
東京名所江戸橋郵便局真景	(芳英筆カ)	明治24(1891)年		○	
東京蛸売街第五国立銀行繁栄之図	歌川広重(三代)	明治9(1876)年	○		
東京名所之内江戸橋三菱蔵郵便局	歌川広重(三代)	明治14(1881)年	○		●
筋違万代橋祖税寮之図	歌川広重(三代)	明治8(1875)年		○	
東京開化名勝筋違万代橋景	歌川広重(三代)	明治7(1874)年	○		
東京府鉄炮洲異人館之図	歌川広重(三代)	明治2(1869)年		○	
東京名所之内京橋通り之真景	歌川広重(三代)	明治12(1879)年		○	
東京名所四十八景 京はし	昇斎一景	明治4(1871)年	○		
東京銀座三丁目中川製造所之図	歌川広重(三代)	明治前期	○		
東京名所銀座通朝野新聞社盛大之真図	歌川広重(三代)	明治12(1879)年	○		●
東京名所両国報知社図	歌川広重(三代)	明治9(1876)年	○		●
東京銀座煉化石聯家京橋ヨリ一覽之図	昇斎一景	明治6(1873)年		○	●
東京名所図会銀座通り煉瓦造	歌川広重(三代)	明治12(1879)年		○	●
久松町劇場久松座繁栄図	歌川広重(三代)	明治12(1879)年		○	●
東京第一之劇場新富座大当ノ図	歌川広重(三代)	明治14(1881)年	○		●
東京築地ホテル館繁栄之図	歌川国輝(二代)	明治2(1869)年	○		●
東京汐留鉄道館蒸汽ノ車待合之図	歌川広重(三代)	明治6(1873)年	○		●
東京名所第一之風景 永代橋	歌川広重(三代)	明治8(1875)年	○		
浅草金龍山浅草寺真景	小林幾英	明治25(1892)年		○	
東京名所之内両国橋大花火之真図	薫洲周春	明治20(1887)年		○	
鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図	歌川広重(三代)	明治15(1882)年		○	●
浅草並木人力車の賑ひ	昇斎一景	明治4(1871)年	○		●
東京往来車尽	歌川芳虎	明治3(1870)年	○		●
東京高輪鉄道蒸汽車走行之全図	歌川国輝(二代)	明治4(1871)年		○	●
新橋之図		明治後期~大正期		○	●
東京両国通運会社川蒸気往復盛栄真景之図	歌川重清	明治10年代		○	●
古今東京名所 日本橋大名の行烈・日本ばしより宝町の図	歌川広重(三代)	明治17(1884)年	○		
東京名所八代洲町警視庁火消出初階子乗之図	歌川広重(三代)	明治9(1876)年		○	
東京開化名所	歌川広重(三代)	明治7(1874)年		○	
東京名所画譜	寿昇	明治23(1890)年		○	
東京名所図絵	尾関トヨ	明治22(1889)年	○		
伊勢参宮名所案内之図	山下惣兵衛	大正15(1926)年		○	
大日本大阪両鉄橋之図	東新太郎 発行	明治22(1889)年	○		●
三山総絵図	三神社常雇宮下正勝	明治12(1879)年		○	
横浜郵便局開業之図	歌川広重(三代)	明治8(1875)年		○	●
東京豪商寿語六	歌川広重(三代)	明治7(1874)年	○		●
当世隊長せよつくし	歌川房種	明治元(1868)年		○	●
明治改正東京全図	嵯峨野彦太郎 発行	明治20(1887)年	○		
大東京全図	奥村金次郎 発行	大正11(1922)年		○	
切手 切手趣味週間(竹久夢二「北方の冬」「朝の光へ」)		昭和60(1985)年発行	○	○	
北方の冬(女十題) 木版画	竹久夢二	大正12~15年頃		○	
朝の光へ(女十題) 木版画	竹久夢二	大正12~15年頃	○		



《東京汐留鉄道館蒸汽車ノ待合之図》 歌川広重 (三代) / 明治6 (1873) 年

発行：郵政博物館 平成29 (2017) 年9月15日